

読売新聞 8月26日(木) 朝刊 掲載記事

# 板橋高校 硬式野球部 3年生引退試合

## 板橋ナイン 涙のち晴れ

### 小山台高と引退試合 コロナで辞退の夏有終

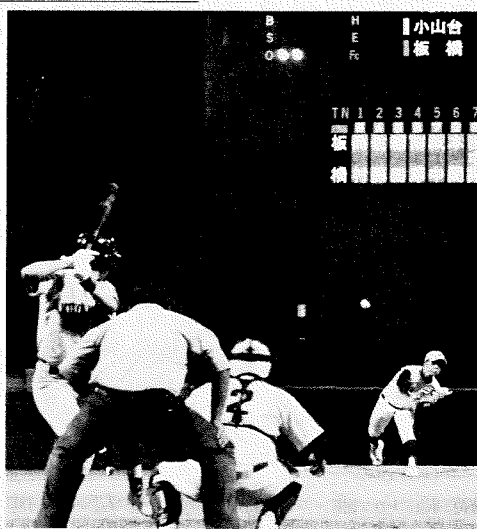
夏の全国高校野球大会の東東京大会期間中に部員の新型コロナウイルス感染が判明し、出場を途中で辞退した板橋高校野球部が25日、大田スタジアム（大田区）で3年生の引退試合を行った。同じ都立で強豪の小山台高校を相手に、最後

まで全力プレーで戦い抜いた。

この日の試合は序盤で板橋が2点リード。その後接戦となり、球場の利用時間制限で4-4のまま8回で打ち切られた。それでも、ユニホームを泥だらけにした板橋の選手は、晴れやか

な表情で整列しグラウンドに礼をした。

板橋は東東京大会の1、2回戦をコールドで勝ち進んだが、部員2人が感染。3回戦前日の7月21日に出場辞退した。その夜、部員約45人を集めたオンライン会議で柴崎正太監督が頭を下げ



板橋の引退試合でプレーする選手たち。スコアボードの表示や球場アナウンスなど、公式戦と同じ雰囲気で行われた（25日、大田区で）＝広瀬誠撮影

ると、3年生14人は画面越しに泣き崩れた。今回の引退試合を提案したのは、小山台の福嶋正信

監督。柴崎監督の恩師でもあり「板橋は選手目の輝きがある良いチーム。つらさを和らげてあげたい」と

持ちかけた。

部員の感染を知った時、2人に電話で「感染はお前のせいじゃない」と慰めたという板橋の佐藤陽生主将は試合後、「板橋の野球ができた。燃え尽きました」と胸を張った。最後の舞台を用意してくれた周囲への感謝がこみ上げたという。選手に囲まれた柴崎監督は「皆が必死でやったことは間違いない。これからの人生、何があっても大丈夫」と言い切っていた。

応援ありがとうございました!!